

4. 活動報告

4. 1 会議録等

4. 1. 1 第7回（平成17年度第1回）大都市圏地殻構造調査研究運営委員会

(1) 開催日時 平成17年9月29日(金) 13:30～17:00

(2) 開催場所 東京大学地震研究所第二会議室

(3) 議事次第

1. 第6回（平成16年度第2回）運営委員会議事概要

2. 地震研共同利用・特定共同研究の公募

3. 防災研協同利用・特定課題分担研究の公募

4. 東南海・南海地震に関する調査研究について

5. 平成17年度の国際シンポジウムについて

1. 5年間全体の計画と平成17・18年度の研究計画及び最終的に得られる成果について

(4) 配布資料一覧

・資料1 第6回（平成16年度第2回）運営委員会議事概要

・資料2 委員名簿

・資料3 東京大学地震研究所共同利用

・資料4 京都大学防災研究所共同利用

・資料5 東南海・南海地震に関する調査について

・資料6 第2回国際シンポジウムについて

・資料7 弾性波探査（制御震源、自然地震）地震研

・資料8 弾性波探査 防災研

・資料9 ボーリング（防災科研+産総研）

・資料10 断層等のモデル化（地震研）

・資料11 断層等のモデル化（防災研）

・資料12 進捗状況のまとめ

(5) 出席者

(委員)

東京大学地震研究所	教授	島崎邦彦
東京大学地震研究所	教授	平田 直
東京大学地震研究所	教授	佐藤比呂志
東京大学地震研究所	教授	瀬瀬一起
東京大学地震研究所（アウトリーチ推進室）	助教授	土井恵治
京都大学理事	副学長	入倉孝次郎
京都大学防災研究所	教授	梅田康弘
京都大学防災研究所	教授	伊藤 潔

京都大学防災研究所	教授	岩田知孝
千葉大学理学部	助手	津村紀子
〔独〕防災科学技術研究所	統括主任研究員	笠原敬司
〔独〕防災科学技術研究所	研究主監	石田瑞穂
〔独〕防災科学技術研究所	主任研究員	藤原広行
〔独〕産業技術総合研究所地質情報研究部門	主任研究員	高橋雅紀
〔独〕海洋研究開発機構地球内部変動研究センター		仲西理子
		津村建四朗

(オブザーバー)

文部科学省研究開発局地震・防災研究課	課長補佐	神谷考司
文部科学省研究開発局地震・防災研究課	地震火山専門官	大城 功
文部科学省研究開発局地震・防災研究課	地震調査官	碓井勇二
文部科学省研究開発局地震・防災研究課	調査員	野澤 貴
文部科学省研究開発局地震・防災研究課	調査員	奥野智久
文部科学省研究開発局地震・防災研究課	本部係長	和田弘人
文部科学省研究開発局地震・防災研究課	振興係	井上祐樹
東京大学地震研究所	産学官連携研究員	小林励司
東京大学地震研究所	産学官連携研究員	河村知徳
東京大学地震研究所	産学官連携研究員	呉 長江
東京大学地震研究所	産学官連携研究員	加藤直子
〔独〕防災科学技術研究所		関口渉次
東京大学地震研究所	事務長	嶋村政義
東京大学地震研究所	副事務長	浦 邦夫

(6) 議事録

(開会)

1. 石田委員長から第7回大都市圏地殻構造調査研究運営委員会を開催する旨の発言があった。
2. 議事に先立ち文部科学省研究開発局地震・防災研究課 神谷考司課長補佐の挨拶があった。
3. 事務局から配布資料確認、出欠確認があった。
4. 産学官連携研究員及び大大特推進室スタッフの紹介があった。

(報告)

1. 第6回(平成16年度第2回)大都市圏地殻構造調査研究運営委委員会 議事概要(資料1) 配布資料に基づき前回議事概要(案)が承認された。
2. 大大特運営委員の確認を行った(資料2)
3. 地震研共同利用・特定共同研究の公募(資料3)

平田委員から配布資料に基づいて説明があった。

4. 防災研協同利用・特定課題分担研究の公募（資料4）

岩田委員から配布資料に基づいて説明があった。

5. 東南海・南海地震に関する調査研究について（資料5）

平田委員から配布資料5に基づいて説明があった。

仲西委員から配布資料5-2に基づいて説明があった。

6. 第2回国際ワークショップ『Strong Ground Motion Prediction and Earthquake Tectonics in Urban Areas』について（資料6）

瀬瀬委員から、平成17年10月25日～27日に第2回国際ワークショップが開催される旨の説明があった。

（議事）

1. 5年間全体の計画と平成17・18年度の研究計画及び最終的に得られる成果について

（1）弾性波探査（制御震源、自然地震）について佐藤委員から配布資料による説明があった。津村委員から自然地震観測の成果について質問があった。（配布資料7、科学、Science、エコノミスト）

（2）弾性波探査について伊藤委員から配布資料による説明があった。津村委員から質問があった。（配布資料8）

（3）ボーリングについて

笠原委員、高橋委員から配布資料に基づき説明があった。佐藤委員、碓井オブザーバーから質問があった。（配布資料9-2）

（4）地震研究所における断層等のモデル化について

瀬瀬委員から配布資料に基づき説明があった。（配布資料10）

（5）防災研究所における断層等のモデル化について

岩田委員から配布資料に基づき説明があった。（配布資料11）

（6）平田委員から進捗状況のまとめ方について、配布資料による説明があった。（配布資料12）

（その他）

1. 平田委員より、来年度開催される国際シンポジウム（2006年第12回大陸と縁辺域の深部地震探査に関する国際シンポジウム：12th International Symposium On Deep Seismic Profiling of the Continents and their Margins）に大大特の成果を発表していきたい旨の発言があった。

2. 文部科学省神谷オブザーバーより、平成18年度で大大特は終了となるが、平成19年度に向けては、得られた成果が国民に対して如何に役立つかを示して行く必要がある旨の発言があった。

4. 1. 2 第8回（平成17年度第2回）大都市圏地殻構造調査研究運営委員会 （議事録案）

（1）開催日時 平成18年3月20日（月） 13:30～17:00

（2）開催場所 東京大学地震研究所第二会議室

（3）議事次第

1. 第7回（平成17年度第1回）運営委員会議事概要
2. 平成17年度の報告書の作成について
3. 平成18年度の予算・契約について
4. 地震研共同利用・特定共同研究の公募
5. 防災研共同利用・特定課題分担研究の公募
6. 東南海・南海地震に関する調査研究について
7. 平成17年度の研究成果について
8. 平成18年度の研究計画について

（4）配布資料

- ・資料1 第7回（平成17年度第1回）運営委員会議事概要
- ・資料2 委員名簿
- ・資料3 東京大学地震研究所共同利用
- ・資料4 京都大学防災研究所共同利用
- ・資料5 東南海・南海地震に関する調査について
- ・資料6 弾性波探査（制御震源、自然地震）地震研
- ・資料7 弾性波探査 防災研
- ・資料8 ボーリング（防災科研+産総研）
- ・資料9 断層等のモデル化（地震研）
- ・資料10 断層等のモデル化（防災研）
- ・資料11 平成17年度報告書目次（案）
- ・資料12 東京大学 業務計画書（案）
- ・資料13 京都大学 業務計画書（案）
- ・資料14 防災科学技術研究所 業務計画書（案）

（5）出席者

東京大学地震研究所	教授	平田 直
東京大学地震研究所	教授	佐藤比呂志
東京大学地震研究所	教授	瀬瀬一起
東京大学地震研究所	教授	金沢敏彦
東京大学地震研究所	助教授	土井恵治
京都大学防災研究所	教授	梅田康弘
京都大学防災研究所	教授	伊藤 潔
京都大学防災研究所	教授	岩田知孝

京都大学防災研究所	教授	橋本 学
千葉大学理学部	教授	伊藤谷生
〔独〕 防災科学技術研究所	フェロー	石田瑞穂
〔独〕 防災科学技術研究所	統括主任研究員	笠原敬司
〔独〕 防災科学技術研究所	主任研究員	藤原広行
〔独〕 産業技術総合研究所地質情報研究部門	主任研究員	柳沢幸夫
		津村建四朗
海洋研究開発機構地球内部変動研究センター	プログラムディレクター	金田義行

(オブザーバー)

文部科学省研究開発局地震・防災研究課	地震調査官	碓井勇二
文部科学省研究開発局地震・防災研究課	調査員	奥野智久
気象庁	活断層情報係長	小河原隆広
東京大学地震研究所	助手	五十嵐俊博
東京大学地震研究所	産学官連携研究員	加藤直子
〔独〕 防災科学技術研究所	主任研究員	関口渉次
東京大学地震研究所	事務長	嶋村政義
東京大学地震研究所	副事務長	浦 邦夫

議事録

(開会)

1. 石田委員長から第 8 回大都市圏地殻構造調査研究運営委員会を開催する旨の発言があった。
2. 議事に先立ち文部科学省研究開発局地震・防災研究課 碓井地震調査官から、平成 18 年度の予算額等について説明があった。
3. 事務局から配布資料確認、出欠確認があった。平田委員から本日の議題についての概略説明があり、議事が開始された。

(報告)

1. 第 7 回 (平成 17 年度第 2 回) 大都市圏地殻構造調査研究運営委員会 議事概要。配布資料に基づき前回議事概要 (案) が承認された。
2. 地震研共同利用・特定共同研究の公募について平田委員から資料 3 に基づいて説明があった。
3. 防災研共同利用・特定課題分担研究の公募について岩田委員から資料 4 に基づいて説明があった。
4. 東南海・南海地震に関する調査研究について金沢委員・金田委員から資料 5 に基づいて説明があった。

(議事)

- (1) 平成 16 年度の研究成果及び平成 18 年度の研究計画について

1. 首都圏および近畿圏での弾性波探査（制御地震、自然地震）について佐藤委員から配布資料（資料 6）による説明があった。
2. 近畿圏での弾性波探査（制御地震、自然地震）について伊藤（潔）委員から配布資料（資料 7）による説明があった。平田委員よりトモグラフィとマイグレーション処理時の速度に関して、津村委員より地震発生層と速度構造との関係についての質問があった。
3. ボーリングについて笠原委員、柳沢委員から配布資料（資料 8）に基づき説明があった。伊藤（谷）委員より付言があった。また、佐藤委員よりハイエイタス（無堆積）の有無について、平田委員より反射断面との関係について、瀬瀬委員より地質層序について質問があった。
4. 地震研究所における断層等のモデル化について瀬瀬委員から配布資料（資料 9）に基づき説明があった。
5. 地震研究所における断層等のモデル化について岩田委員から配布資料（資料 10）に基づき説明があった。佐藤委員より花折断層と琵琶湖西岸断層系でのスリップパーティションングについて、津村委員より断層形状について質問があった。

（その他）

1. 平田委員より平成 17 年度報告書作成について資料 11 に基づき説明があり、文部科学省から補足説明があった。佐藤委員より報告書提出の際の注意事項について付言があった。
2. 平田委員より地震研究所と南カリフォルニア地震センター（SCEC）が共同で開催するシンポジウムを 6 月に計画しており、大大特としても参加する旨の発言があった。また、平田委員より 9 月に開催される「大陸と縁辺域の深部地震探査に関するシンポジウム」に大大特としても参加する旨の発言があった。佐藤委員より補足説明があった。
3. 東京大学、京都大学、防災科学技術研究所の業務計画書（資料 12, 13, 14）について認証された。

4. 1. 3 制御震源地殻構造探査運営委員会報告

(1) 第1回制御震源地殻構造探査運営委員会

(a) 開催日時 平成17年6月21日(火) 13:30～17:30

(b) 場所 東京大学地震研究所 第3会議室

(c) 主な議題: 平成16年度構造探査成果の報告と検討、平成17年度の構造探査計画

(d) 概要: 平成16年度に実施した大阪-鈴鹿測線と新宮-舞鶴測線の成果について検討した。平成17年度の小田原-山梨測線・北関東測線の地殻構造探査の基本計画を定めた。

出席者: 佐藤比呂志、平田 直、笠原敬司、岩崎貴哉、伊藤 潔

オブザーバー: 井川 猛、川中 卓、阿部 進、斉藤秀雄、河村知徳

(3) 第2回制御震源地殻構造探査運営委員会

(a) 開催日時 平成18年3月8日(水) 13:30～17:00

(b) 場所 東京大学地震研究所 第3会議室

(c) 主な議題: 平成17年度の探査成果の検討と平成18年度の探査計画の検討

(d) 概要: 平成17年度に実施した小田原-山梨測線・北関東測線の地殻構造探査の成果について検討し、平成18年に実施する近江測線と和泉測線の基本計画の検討を行った。

出席者: 佐藤比呂志、岩崎貴哉、額瀨一起、平田 直、笠原敬司、伊藤谷生、伊藤 潔、

オブザーバー: 井川 猛、川中 卓、阿部 進、須田茂幸、斉藤秀雄、川崎慎治、

加藤直子、木村治夫

4. 1. 4 大都市圏地殻構造調査・ボーリング調査検討委員会活動報告

(1) 第6回大深度ボーリング掘削検討委員会

(a)開催日時: 平成17年8月10日 10:00～8日 12:00

(b)場所: 埼玉県東松山市東松山市民文化センター第3会議室

(c)主な議題: これまでの成果の報告および17年度掘削予定地の選定について

(d)概要:

(1)笠原より、これまでの掘削における成果と研究体制構築について報告があった。

(2)柳沢より、今年度の掘削が予定される埼玉県川島町について、その地質学的背景の説明があった。

(3)高木より、埼玉県付近における基盤岩の分布および中央構造線の推定について説明があった。

(4)高橋より、関東平野周辺の基盤岩の分布について説明があり、参加者一同による活発な討論がなされた。

(5)平成15年度掘削の山北南ボーリングについて、今後の研究方針を打ち合わせた。この件については今後もメール等で議論することとした。

(6)来年度の掘削地点の選定について、地体構造および地震学の観点から活発な議論がなされた。千葉県神崎、茨城県牛久および新利根が候補として挙げられた。今後、メール等で議論を深めることとした。

(7)会議終了後は周辺の地質について巡検を行った（案内者：柳沢、高橋、高木）。

参加者：笠原、関口、林、柳沢、高橋、津久井、高木、新井

4. 1. 5 断層モデル運営委員会活動報告（地震研究所共同利用特定課題分担研究）

(1) 第1回運営委員会

(a) 開催日時 2月13日(金)

(b) 開催場所 東大地震研究所

(c) 主な議題：平成17年度成果報告および18年度研究計画

平成17年度成果報告の取りまとめ方について議論を行った。また、18年度の研究計画を持ち寄り、研究課題間の調整を行った。

出席者：島崎・山中・宮武・古村・鷹野・瀬瀬

4. 1. 6 断層モデル運営委員会活動報告(防災研究所共同利用特定課題分担研究)

1. 平成17年度特定課題分担研究 5 課題を採択し、課題担当者（西上、橋本、岩田）の研究グループ内で研究をすすめた。

2. 平成17年度の共同利用特定課題分担研究・断層モデル運営委員会委員は以下のとおりであった。

3. 平成18年度の共同利用特定課題分担研究の新規の公募は行わなかった。平成17年度の研究は全て2年計画で、平成18年度は研究を継続する。

平成17年度

防災研究所共同利用特定課題分担研究・断層モデル運営委員会

代表 瀬瀬一起 東京大学地震研究所

委員長 岩田知孝 京都大学防災研究所地震災害研究部門

委員 藤原広行 (独) 防災科学技術研究所

梅田康弘 京都大学防災研究所地震予知研究センター

伊藤 潔 京都大学防災研究所地震予知研究センター

橋本 学 京都大学防災研究所地震予知研究センター

西上欽也 京都大学防災研究所地震防災研究部門

モリジェームスジロウ 京都大学防災研究所地震防災研究部門

京都大学防災研究所共同利用委員会委員 2名

17D-01	川方裕則	近畿圏内陸地震発生場における非弾性変形抽出のための応力と歪みのモニタリング
17D-02	古本宗充	地殻の粘弾性的構造と応力に対する応答についての研究
17D-03	釜江克宏	南海・東南海地震時の長周期地震動の予測高精度化に関する研究
17D-04	亀伸樹	地震破壊過程の複雑さにおける断層面形状効果の解明
17D-05	笹谷努	スラブ内地震の震源特性に関する研究

4. 1. 7

国際ワークショップ「2nd International Workshop on Strong Ground Motion Prediction and Earthquake Tectonics in Urban Areas」

- (1) 開催日時：2005年10月25日-27日
- (2) 場所：東京大学地震研究所
- (3) 主催：東京大学地震研究所・京都大学防災研究所・防災科学技術研究所
- (4) 後援：文部科学省「大都市大震災軽減化特別プロジェクト」、南カリフォルニア地震センター、南カリフォルニア大学
- (5) 概要：概要：このワークショップでは本プロジェクトで実施した3カ年の成果を報告するとともに、環太平洋地域のいろいろな大都市圏で行われている同種の研究について、情報交換が行われた。発表された講演では、震源の物理、断層やテクトニクスの探査、地震観測、GPS観測、強震動予測、地震被害想定など、大都市圏における種々の関連した話題が含まれていた。
- (6) プログラム

October 25 AM

10:00-10:10 Shuhei Okubo (ERI Director)

Opening Remarks

10:10-10:20 Yoshichika Nishio (Earthquake Research Division Director, MEXT)

Greetings from MEXT

Research Projects

10:20-10:50 Naoshi Hirata (DaiDaiToku project leader; ERI, Univ. Tokyo)

Overview of results from the Metropolitan Project: Regional characterization of the crust in metropolitan areas for prediction of strong ground motion

10:50-11:20 Thomas H. Jordan (SCEC Director; Univ. Southern California)

SCEC's program of earthquake system science in southern California

11:20-11:50 Hiroyuki Fujiwara (J-SHIS project leader; NIED, Tsukuba)

National seismic hazard maps of Japan

October 25 PM

Earthquake Tectonics

13:30-14:00 Toshiro Tanimoto (Univ. California, Santa Barbara)

A method to determine S-wave velocity in the shallow crust: Frequency dependence in Rayleigh wave ellipticity

14:00-14:20 Hiroshi Sato, Naoshi Hirata, Kazuki Koketsu (ERI, Univ. Tokyo), Kiyoshi Ito (DPRI, Kyoto Univ.), David Okaya (Univ. Southern California), Takaya Iwasaki (ERI, Univ. Tokyo), Tanio Ito (Chiba Univ.), Keiji Kasahara (NIED, Tsukuba), Takeshi Ikawa, Susumu Abe, Taku Kawanaka (JGI Incorporated), Makoto Matsubara (NIED, Tsukuba), Reiji Kobayashi (ERI, Univ. Tokyo), and Steven Harder (Univ. Texas El Paso)

Seismic reflection profiling for prediction of strong ground motion in the metropolitan areas, Japan: Results from Tokyo and Osaka

14:20-14:40 Kiyoshi Ito, Yasuhiro Umeda (DPRI, Kyoto Univ.), Hiroshi Sato, Naoshi Hirata (ERI, Univ. Tokyo), Taku Kawanaka, and Takeshi Ikawa (JGI Incorporated)

Deep seismic profiling in the Kinki district: The Shingu-Maizuru line

14:40-15:00 Kin'ya Nishigami (DPRI, Kyoto Univ.)
Modeling deep structure of active faults and 3-D crustal structure in and around the Kinki district (2)

Earthquake Source

15:20-15:50 Ralph J. Archuleta, Susana Custodio (Dept. Earth Sci. and Inst. Crustal Studies, Univ. California, Santa Barbara), and Pencheng Liu (Inst. Crustal Studies, Univ. California, Santa Barbara)

Resolving the source parameters of the Parkfield earthquake by multiple inversions of different data sets

15:50-16:10 Tomotaka Iwata (DPRI, Kyoto Univ.)
Source inversion of recent destructive earthquakes and characterized source model

16:10-16:30 Shin'ichi Miyazaki (ERI, Univ. Tokyo)

Transient crustal deformation as deduced from a dense GPS array - imaging evolutions of slip, slip-rate, and shear stress change

16:30-16:50 Manabu Hashimoto (DPRI, Kyoto Univ.), Nithiwatthn Choosakul, Michio Hashizume (Chulalongkorn Univ.), Shuzo Takemoto, Hiroshi Takiguchi, Yoichi Fukuda, and Kunio Fujimori (Kyoto Univ.)

A geodetic fault model for the 2004 Sumatra-Andaman earthquake derived from CGPS data

16:50-17:10 Naoyuki Kato (ERI, Univ. Tokyo)
Numerical simulation of recurrence of asperity rupture in the Sanriku region, northeastern Japan

October 26 AM

Ground Motions

09:30-10:00 John G. Anderson (Univ. Nevada, Reno)
Extreme ground motions

10:00-10:20 Saburo Midorikawa (Tokyo Inst. Tech.)

- Some problems on empirical strong motion prediction
- 10:20-10:50 Paul G. Somerville and Arben Pitarka (URS Corporation, Pasadena)
Differences in earthquake source and ground motion characteristics between surface and buried earthquakes
- 10:50-11:10 Hiroe Miyake, Kazuki Koketsu, Reiji Kobayashi, Yasuhisa Tanaka, and Yasushi Ikegami (ERI, Univ. Tokyo)
Broadband source modeling and integrated 3D velocity model in the Tokyo metropolitan area: towards ground motion validation of the great 1923 Kanto earthquake
- 11:10-11:40 David J. Wald (USGS, Golden)
Prompt assessment of global urban earthquakes: challenges producing rapid ground motion estimations

October 26 PM

Site Effects

- 13:00-13:30 Thomas L. Pratt (USGS, Seattle)
Site response, basin effects and attenuation in the Puget lowland, Washington state
- 13:30-13:50 Shoji Sekiguchi (NIED, Tsukuba), Hiroki Hayashi (Shimane Univ.), Masashi Tsukui (Chiba Univ.), Yo Uesugi (Tsuru Univ.), Tanio Ito (Chiba Univ.), Yukio Yanagisawa (AIST, Tsukuba), Fumio Yamamizu, Kazushige Obara, Sadaki Hori, Hisanori Kimura, Makoto Matsubara, and Keiji Kasahara (NIED, Tsukuba)
Deep drilling at the arc-arc collision zone in the Yamakita area, central Honshu, Japan
- 13:50-14:10 Masaki Takahashi, Yukio Yanagisawa (AIST, Tsukuba), Keiji Kasahara (NIED, Tsukuba), Haruko Sekiguchi (AIST, Tsukuba), and Hiroshi Hayashi (Shimane Univ.)
Subsurface half-grabens in the Kanto Plain, central Japan, and its effect for long-period strong motion
- 14:10-14:30 Hiroaki Yamanaka (Tokyo Inst. Tech.)
Construction of 3D S-wave velocity model of the Kanto basin, Japan, using Rayleigh wave phase velocity
- 14:50-15:20 Kenichi Tsuda and Ralph J. Archuleta (Univ. California, Santa Barbara)
Nonlinear site response: case study from 2003 and 2005 Miyagi-oki earthquakes
- 15:20-15:40 Hiroshi Kawase (Kyushu Univ., Faculty of Human-Environment Studies)
Site effects derived from spectral inversion method for K-NET, KiK-net, and JMA strong-motion network with special reference to soil nonlinearity in high PGA records
- 15:40-16:00 Kazue Wakamatsu (NIED, Kawasaki)
Development of 7.5-arc-second engineering geomorphologic classification database for metropolitan areas in Japan
- 16:00-16:30 Tom Heaton (California Inst. Tech.)
Simulated high-rise building response using strong motions recorded during the

2003 Tokachi-oki earthquake

October 26 Evening

Public Lectures (in Japanese)

- 17:00-18:00 Kojiro Irikura (Kyoto Univ.)
Prediction of strong ground motion with “recipe”
- 18:00-19:00 Kazuki Koketsu (ERI, Univ. Tokyo)
Future earthquakes and their strong ground motions in the Tokyo metropolitan area

October 27 AM

Large-scale Simulation and Rupture Dynamics

- 09:10-09:30 Muneo Hori (ERI, Univ. Tokyo), Tsuyoshi Ichimura (Tokyo Inst. Tech.), and Kenji Oguni (ERI, Univ. Tokyo)
Integrated earthquake simulation - Estimation of strong ground motion and structural responses
- 09:30-10:00 Kim B. Olsen (San Diego State Univ.)
TeraShake: Large-scale simulations of M7.7 earthquakes on the Southern San Andreas Fault
- 10:00-10:30 Steven M. Day (San Diego State Univ.)
Analysis of long-period amplifications from TeraShake
- 10:30-10:50 Hidenori Kawabe and Katsuhiro Kamae (RRI, Kyoto Univ.)
Underground structure modeling of Kii peninsula, Japan, for long period ground motion simulation
- 10:50-11:10 Takashi Furumura (ERI, Univ. Tokyo)
Computer simulation of long-period ground motions associated by large subduction zone earthquakes
- 11:10-11:30 Satoshi Ide (Dep. Earth Planet. Sci., Univ. Tokyo)
Rupture propagation along fault surfaces of fractal characteristics
- 11:30-11:50 Takashi Miyatake (ERI, Univ. Tokyo)
Effect of negative stress drop on faulting process
- 11:50-12:00 Mizuho Ishida (NIED, Tsukuba)

Closing Remarks